

ほほえみ 第20号



7月というと、盛岡も夏本番ですね。働くようになってから、夏休みや、夏休みの宿題という言葉は無縁となりましたが、実は、夏休みの宿題に似たものが多くなってきています。書き物を依頼されたり、申請したり、期限付きの仕事がそうです。思うに、夏休みの宿題がなぜ嫌であったかという、期限が決まっているからだと思います。いずれやるのですが、あれとあれをやらなくてはいけないというのが、精神的に負担だからかと思えます。計画的に仕事をこなすのが苦手という証明でしょうか。皆様は、期限付きの仕事はどうされていますか。

がんと感染症

がんと感染症は全く異なる疾患ですが、医学の歴史を見ると、関連していることがわかります。近代までは、死亡原因の第一位は感染症でした。結核がそうでしたし、コレラ、赤痢なども猛威を奮っていました。天然痘もありましたし、ハンセン病なども今のように過去の病気ではありませんでした。この時代は人生50年であり、がんを発症するよりは、感染症で命を落とすということも少なくなかったと思われまます。

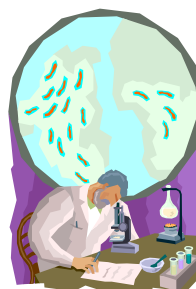
今では、感染症はそれ程恐れられていませんが、この背景には、予防接種と抗生物質の開発があります。かたや、免疫を付けて予防するというものですし、抗生物質の使用によって、発病しても適切に治療すれば、命を落とすことはない、まず完治するだろうという時代になりました。そして、平均寿命が右肩上がりに延びていく時代となった訳です。

感染症が制御されてくると、次にはがんという病気が問題になってきました。実は、全く異なる病気ではありますが、当初の考え方は、感染症の時代の成功体験を引き継ぐものであったと思われまます。特に、抗生物質の流れから発想された初期の抗がん剤治療の理論は、細菌を死滅させるように、がん細胞を根絶するというものでした。その為には、複数の抗がん剤を用いて、より多くの量を投与し、がん細胞を徹底的に減らすという戦略が採られました。この発想は、白血病などの血液腫瘍に関しては、今も成り立つのですが、固形腫瘍(通常のがん)には、当てはまらないものでした。今も、抗がん剤治療というと、この多剤併用療法時代のイメージを持たれる方も少なくありません。

免疫系にしても、薬物療法にしても、がんの治療に関しては、自己の細胞ががん化しているということが、がんという疾患の特徴であり、特に固形腫瘍では、がんを非自己として認識する(免疫する)、正常細胞に影響を与えずがん細胞だけを根絶することは原理的に、感染症の場合より数段難しいことなのです。ここに、がん治療の特有の難しさがあると言えます。

現在の研究の流れは、がんらしさの大本となる遺伝子の異常を詳細に研究して、ピンポイントで遺伝子の作用を抑えるという研究や、がんの中の幹細胞(がんを一本の木に例えるなら根っここの部分)を標的にした薬剤の開発が進めようというものです。本当にこのような概念が現実化すれば、大幅に治療が変わっていくものと思われまます。

現在は、分子標的薬剤という、先程取り上げたピンポイントの薬剤の研究の草創期と考えられ、ピンポイントの薬剤と言っても、実際には正常の組織も一緒に攻撃したりして、必ずしもピンポイントとは言えない状況ですが、がんという遺伝子の変異から生じた病気を特異的に狙えば効果があがるということを実用化し始めたことは、大きな進歩と言えるでしょう。



がん も自分の細胞だから、身のうちなのですね。



ピンポイントは、何処だろう。

感染症では上手くいくんだけどな。

第15回 東北臨床腫瘍研究会

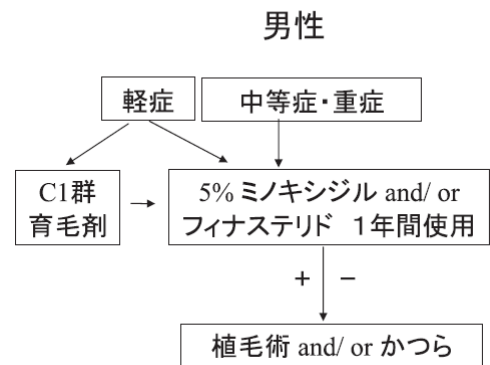
先月の6月16日に、仙台市で開催された、第15回東北臨床腫瘍セミナーに出かけてきました。生まれ育った地より、仙台で生活した時間の方が長いのですが、用事で短時間だけ行くと懐かしさというより、変化した部分が目について、違和感がありますね。今回は、リンパ浮腫、化学療法のプロトコール管理、米国癌学会の話題、緩和ケア、悪性リンパ腫などの話題がありましたが、リンパ浮腫の講演をされた、大塚弓子さんはご自身の闘病を書いた「ミラクルガール」の著者で、会場には看護師さんを中心とした女性の参加者の姿が、多いように見受けられました。

来年は、今回研究会が行われた、仙台国際センターで、日本臨床腫瘍学会(全国学会)も開催されるとお聞きしておりますが、仙台市は都市部は震災の影響が感じられないくらいに復興しているようでした(加藤)。

男性型脱毛症診療ガイドライン

先日、化学療法に伴う脱毛について、本格的に調べる機会があり、ひょんなことで、男性の脱毛に対してのガイドラインが日本皮膚科学会から出ていることがわかりました。通常の脱毛に対しては、テレビのコマーシャルで、いろいろな育毛剤やシャンプー、かつらなど次々に宣伝されていますが、皮膚科の専門医が、公式にガイドラインを作成していたことは驚きでした。

成分名で書かれているので、これはどの育毛剤なのかなとか、面白半分読んでいたのですが、真剣に考えなくてはいけないという意見もあり、ガイドライン推奨のアルゴリズムで対応してみようかと考慮中です。



2010年 男性型脱毛症診療ガイドラインより

我が家の家庭菜園 (その後)

家庭菜園といいながら、結局、私個人で管理しているような状況ですが、いろいろと作物を植えて、何とか少しずつ、作物も育ってきています。一番成長が著しいのは、ミニトマトで、どんどん枝が茂ってくるので、整枝するのが大変なくらいです。先日、株元を見たら、色づいてきた実もありました。

ジャガイモは、発芽してから、茂りすぎたので、二本に枝を纏めて、そろそろ花が咲きそうです。メロンは、まだまだ時間がかかりそうですが、カタツムリの絶好の住処となっているようで、子供はカタツムリもいることに喜んでます。



ミニトマト と ジャガイモ

MEMO

7月のがん化学療法科の予定

- 7月14日 柴田教授外来
- 7月16日 海の日
- 7月20日 新渡戸稲造記念 メディカル・カフェ
- 7月27日 柴田教授外来、福田不在(学会出張)



掲載記事の無断転載を禁じます